

「日本学術会議の在り方について」【概要】

I. 科学者コミュニティの果たすべき役割

- ・科学者の英知を結集→科学技術の進展を方向づけ、
人類社会の課題への対処について助言
- ⇒ 期待される役割を果たし得る新しい日本学術会議を構築

II. 日本学術会議に求められる機能

①政策提言機能

- ・長期的・分野横断的・国際的な観点から、政府に対し科学的・中立的提言

②科学に関する連絡・調整機能

- ・我が国科学者の意見の集約と各国科学者との連携・交流

③社会とのコミュニケーション機能

- ・科学技術活動に関する情報発信と社会の意見の吸収・反映

総合科学技術会議：直接に科学技術政策を形成

日本学術会議：科学者の意見を幅広く集約して政策提言

⇒ 役割分担して我が国の科学技術の推進に寄与

III. 当面の改革案

①会員選出：学協会が推薦 ⇒ 科学的業績等に基づき、会員が選出

②部門：7 部制 ⇒ 2~3 部門に大きくくり化（新分野・融合分野に対応）

③運営体制：「総会主義」 ⇒ 理事会で機動的な意思決定

④連携体制：「連携会員」（仮称）の導入等で体制強化

⇒ 科学的水準の向上と機動的運営により、
政府や社会に尊重される権威ある提言を可能に

IV. 設置形態の在り方

総合的に考慮 { 中立性・独立性・運営の柔軟性の確保、欧米主要国の通例
我が国社会の状況等（提言等の社会的受け止め、寄附税制等）

①国家的な設置根拠と財政基盤の保証を受けた独立の法人とすることが理想像

②当面「国の特別の機関」を維持しつつ改革推進

→10 年以内に検討体制を設けて評価

⇒ 改革の進捗状況と社会状況を見極め、より適切な設置形態の在り方を検討

V. 改革の推進

①当面の改革（Ⅲ）を早急に実施

②日本学術会議も体制を整え改革を推進

→科学技術活動の評価などの面で総合科学技術会議と連携し、
科学技術政策に寄与